

# 平成26年度 施策評価表 (平成27年度向け施策の取組方針)

施策名: 地域の歴史  
 施策番号: 17 - 01

## 1 施策の基本情報

施策名	17 地域の歴史	展開方向	01	文化財や歴史資料等の地域資源を保存・活用するとともに、地域の歴史や文化財に関する情報を市内外に発信します。
主担当局	教育委員会	主担当課	歴博・文化財担当	
プロジェクト項目の該当有無	●	現役世代の定住・転入促進(地域資源を生かしたまちの魅力づくり)		
市長公約の該当有無	●	3 尼崎の無形有形資産を活用した施策の研究を進める		
局重点課題の該当有無	●	市制100周年記念新「尼崎市史」刊行の準備(総務局)、市制100周年記念事業の推進(企画財政局)		

## 3 目標指標

指標名	方向	基準値		目標値(H29)	実績値					現時点での達成率
					H25	H26	H27	H28	H29	
① 文化財収蔵庫・田能資料館での展示会の観覧者数	↑	H24	9,161 人	29,000	13,828	**	**	**	**	23.5%
② 指定・登録文化財の件数	↑	H24	104 件	109	106	**	**	**	**	40.0%
③ 地域研究史料館相談利用(レファレンス)人数	↑	H24	1,833 人	1,962	1,877	**	**	**	**	34.1%
④ 地域研究史料館所蔵史料整理・公開比率	↑	H24	76 %	78	76	**	**	**	**	0%
⑤										

## 2 施策を考える背景(まちづくり基本計画の抜粋)

●本市は弥生時代以来2000年以上にわたる豊かな歴史・文化があり、また、その歩みを今に伝える史跡や文化財を始め、各時代のさまざまな歴史資料、産業遺産等が残されているが、これらは市内外に十分に知られているとは言えない。  
 ●文化財や歴史資料等の固有の地域資源をより良い形で将来につなぎ、活用していくためには、地域全体で保全活動等に取り組む必要があることから、地域の歴史に関する活動ができる環境や、子どもの頃から歴史を学ぶ機会を整えていくことが課題である。  
 ●地域資源を活かしたまちづくりを進めていくためには、多くの人が思いを持ってかかわる必要があることから、地域に対する誇りや愛着を醸成していくことが課題である。

## 4 市民意識調査(市民評価)

※割合の合計は、端数処理の関係により必ずしも100%にならない場合があります。

項目内容	●歴史遺産の保存と活用 ●地域の歴史に関する学習機会の提供 など				
	満足	どちらかといえば満足	ふつう	どちらかといえば不満	不満
満足度調査	25年度 1.2%	14.0%	77.6%	5.5%	1.7%
	23年度 2.8%	14.4%	70.2%	10.3%	2.2%
重要度調査	25年度 第20位 / 20位	5点満点中 3.92点(平均 4.39点)			
	23年度 第20位 / 20位	5点満点中 3.40点(平均 3.98点)			

## 5 担当局評価(一次評価)

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)	
<p>行政が取り組んでいくこと ■歴史遺産の保存と活用</p> <p>【文化財収蔵庫・田能資料館】</p> <p>1 【歴史資料等の収集・保存と収蔵資料の公開・活用】                  (1) 歴史資料等の収集・保存 寄贈・寄託による収集を継続的に実施しており、平成25年度末現在、収蔵資料数は2万7千点を超過している。しかしながら、歴史博物館建設事業の休止に伴い歴史博物館資料取得基金による歴史資料等の購入は中断しており、資料購入のあり方が課題となっている。また、収集した歴史資料等の保存は、温度湿度が管理されている民間倉庫を借上げて、適切に保管しているが、市外に所在しているため資料の調査研究や活用面での制約もあり、自館での保存が課題となっている。(2) 歴史資料の公開・活用 発掘調査成果の公開・活用も含め、歴博・文化財担当において、尼信会館での年1回の展示会と関連事業(歴史資料公開活用事業)開催に加えて、平成26年度から文化財収蔵庫企画展示室で企画展を開始しており、文化財収蔵庫の4・5月来館者数は前年度に比べ2.2倍に増加している。田能資料館においても昭和46年からの特別展事業及び、平成15年からは企画展事業も年間1回程度開催しており、各種展示事業の開催期間中は来館者増が見込まれ、新聞社の取材などマスコミの関心も高いことから、今後とも開催していく予定である。なお、文化財収蔵庫企画展示室では屏風や絵図等の大型資料は展示できないため、尼信会館での歴史資料公開活用事業は今後も継続するが、民間施設での開催であるため、市教育委員会主催であることが理解されていないことが多くあり、これについても自館での開催が課題となっている。</p> <p>2 【文化財の保護(文化財の指定、登録)】 尼崎市文化財保護審議会の答申を得て市指定文化財を継続的に指定してきている。また、国登録文化財についても、尼崎市都市美形成建築物の登録を進めたことにより兵庫県で第5位、阪神間では第1位の件数となっている。文化財指定・登録については新聞等にも取り上げられることが多く、尼崎の歴史や文化財の豊かさをPRする良い機会にもなっている。</p> <p>3 【埋蔵文化財の保護と歴史遺産の保存・活用】 (1) 埋蔵文化財の保護 埋蔵文化財収蔵地等の所在を広く周知するため、平成26年度からは、「尼崎市埋蔵文化財取扱い手引き」の発行と関係課・開発業者等への配布、埋蔵文化財専用電話の設置を行い、市民や業者が埋蔵文化財に係る問い合わせや届出を行う際の利便性向上を図った。埋蔵文化財収蔵地内等での開発事業に際し、法令に基づく届出等の手続き及び埋蔵文化財の取扱い等に関する事業者との協議をより円滑に進めるため、工事計画策定の早期段階からの調整を図るべく、埋蔵文化財確認依頼の徹底に努め、件数は平成21年度までは年間1,000件未満で推移していたものが、平成23年度以降は1,500件超に増加し事前調整が図られてきている。しかし、公共事業も含む大規模開発事業に伴う長期間の発掘調査、期間や経費等に関する開発事業と埋蔵文化財保護との調整が困難な事例も顕在化してきており、現行体制での対応が厳しくなっている。(2) 歴史遺産の保存・活用 歴史遺産を保存、活用し、市民と協働で戦略的に情報発信していく方策等について、戦国時代の土塁が現存する富松城跡をモデルに意見聴取するための懇話会を平成26年度に設置する。</p> <p>【地域研究史料館】</p> <p>1 【歴史資料の利用・公開、情報発信】 史料の利用・公開の分野では、引き続き市民にとってわかりやすく利用しやすいレファレンスサービスを重視するとともに、館公式Webサイト等を活用した情報発信に努めた結果、年間相談利用人数1,877人と、前年度の1,833人をやや上回った。市民や専門研究者、学生・院生、市内団体・企業・行政機関等の多様な利用があり、その内容も各時代・分野の歴史調査から身近な地域への興味関心、現実の地域課題と多種多様である。情報発信ツールとしてのWebサイトアクセス数(ページビュー)は、館公式Webサイトが年間3万5000件、同史料・論文検索が22万5,300件、また開館日1日1件以上の記事を掲載しているブログは1記事あたりページビューが2~3千件、同じくfacebookは1記事あたり平均閲覧人数100人前後、多い記事は200~300人となっている。さらに、従来から公開している歴史コンテンツ「Web版尼崎地域史事典apedia」と「Web版図説尼崎の歴史」に加えて、新たに「尼崎藩家臣団データベース分限」を構築・公開するなど、Web上の利用サービス向上に努めた。3コンテンツの年間アクセス数は順にそれぞれ124万件、6,500件、1万1,500件となっている。</p> <p>2 【歴史資料の調査・収集・整理】 地域研究史料館の史料調査・収集・整理・公開を継続し、古文書・近現代文書類3,400点、歴史的公文書430点をはじめ、計6,900点の史料を新たに受け入れた結果、平成25年度末現在の所蔵史料点数は32万8千点となった。また5,200点を年度中に整理・公開した結果、累積整理公開点数25万点、所蔵点数に占める比率は平成24年度と同じ76%である。引き続き調査・収集に努め、また市民ボランティアの協力を得つつ整理・公開を進めていく。歴史的公文書の分野における本庁保管・各課保管現用文書の調査、電子媒体の行政資料など多様な関連資料の把握、保存・活用についての原課との意思疎通、本格的な公文書館事業実施に向けた法制度準備等が課題である。</p> <p>3 【歴史刊行物の編集・刊行】 情報を市内外に発信する刊行物として、各年度1号刊行する史料館紀要『地域史研究』を編集し、多様な専門家や市民の調査・研究成果を掲載することができた。600部を発行し、バックナンバーと合わせて年間158冊を販売。またレファレンスサービスにおける利用件数は年間79件であった。加えて平成28年度刊行予定の市制100周年記念新「尼崎市史」について、外部執筆者に原稿執筆を依頼するとともに、職員が執筆する原稿の作成を進めた。</p>	<p>次年度に向けた取組方針</p> <p>◆見直し・見直しを検討する事項                  【文化財収蔵庫・田能資料館】                  1 【歴史資料等の収集・保存と収蔵資料の公開・活用】                  歴史博物館資料取得基金について、(仮称)歴史文化センター整備事業の進捗状況を勘案しながら存廃について検討するとともに、資料購入のあり方について検討する。</p> <p>◆継続的・重点的に取り組む事項                  1 【歴史資料等の収集・保存と収蔵資料の公開・活用】                  (1) 当面、これまでどおりの取組を進めていくが、温度湿度の管理を要する歴史資料等の保存や大型の歴史資料等の展示公開を他施設で行っている現状が続くことは経費面や利便性の面からも課題が多く、これらが自館で行えるように(仮称)歴史文化センターの整備を進めていくとともに、情報発信のあり方についても検討を行う。                  (2) 各種展示事業については、市民等の関心が高く、地域の歴史に関するアピールに貢献するところが大きいと考えられるため、今後も継続して実施していく。</p> <p>3 【埋蔵文化財の保護と歴史遺産の保存・活用】                  歴史遺産の活用については、今年度富松城跡をモデルに懇話会での意見を踏まえて、平成27年度以降、地域住民等とも連携しながら具体的な活用・情報発信策を検討し、実施していく。</p> <p>【地域研究史料館】                  2 【歴史資料の調査・収集・整理】                  原課保管の歴史的公文書・行政資料等の保存・活用に関する調査及び原課との協議を進めていく。</p> <p>3 【歴史刊行物の編集・刊行】                  市制100周年記念新「尼崎市史」の平成28年度刊行に向けて、計画的に編集作業を進める。</p>
<p>主な事務事業</p> <p>文化財保護啓発事業                  歴史資料保存公開事業</p>	<p>関連する目標指標</p> <p>①・②・③・④</p> <p>進捗</p> <p>○順調 ●概ね順調 ○やや遅れ ○遅れている</p>

## 6 施策評価結果(二次評価)

評価と取組方針	
<p>・収集、保存する文化財の公開・活用については、工夫を凝らした展示手法などにより、観覧者数が増加している。                  また、国登録文化財の登録件数は阪神間第1位で、マスコミにも多く取り上げられているなど歴史や文化財の豊かさのPRにもつながっている。</p> <p>・地域研究史料館所蔵史料の整理や公開は市民ボランティアや大学などとの連携や、インターネットの活用により、市内外の方に興味を抱かせる創意工夫がなされ、相談史料件数も増加している。</p> <p>・一方、多額の費用を伴う貴重な歴史的資料収集やその保存には財政的にも困難な状況にある。</p> <p>・このような中で、協働のモデルケースとして市制100周年に向け計画的な市史編纂事業や、地域住民との連携による富松城址の具体的な活用・情報発信などの取組を進めていく。</p> <p>●上記取組方針を踏まえ、施策の2次評価は「継続取組」とし、現行取組を基本としながら、効果的な施策遂行に努める。</p>	<p>総合評価</p> <p>□重点化 ■継続取組</p>

平成26年度 施策評価表 (平成27年度向け施策の取組方針)

施策名: 地域の歴史  
 施策番号: 17 - 02

1 施策の基本情報

施策名	17 地域の歴史	展開方向	02 地域の歴史に関心を持つ市民の学習機会や場所の充実など、ともに学びあえる環境づくりを進めます。
主担当局	教育委員会	主担当課	歴博・文化財担当
プロジェクト項目の該当有無	●	現役世代の定住・転入促進(地域資源を生かしたまちの魅力づくり)	
市長公約の該当有無	●	3 尼崎の無形有形資産を活用した施策の研究を進める	
局重点課題の該当有無	●	社会教育・地域力創生事業の推進	

3 目標指標

指標名	方向	基準値	目標値(H29)	実績値					現時点での達成率
				H25	H26	H27	H28	H29	
① 文化財収蔵庫・田能資料館主催事業の参加者数	↑	H24 1,243 人	1,300	1,089	**	**	**	**	0%
② 文化財収蔵庫ボランティアの活動者数	↑	H24 2,183 人	2,400	2,270	**	**	**	**	40.1%
③ 地域研究史料館講座・自主グループ参加人数	↑	H24 854 人	895	870	**	**	**	**	39.0%
④ 地域研究史料館出講・協力件数	↑	H24 25 件	40	37	**	**	**	**	80.0%
⑤ 地域研究史料館ボランティア作業延べ人数	↑	H24 434 人	480	476	**	**	**	**	91.3%

2 施策を考える背景(まちづくり基本計画の抜粋)

●本市は弥生時代以来2000年以上にわたる豊かな歴史・文化があり、また、その歩みを今に伝える史跡や文化財を始め、各時代のさまざまな歴史資料、産業遺産等が残されているが、これらは市内外に十分に知られているとは言えない。  
 ●文化財や歴史資料等の固有の地域資源をより良い形で将来につなぎ、活用していくためには、地域全体で保全活動等に取り組む必要があることから、地域の歴史に関する活動ができる環境や、子どもの頃から歴史を学ぶ機会を整えていくことが課題である。  
 ●地域資源を活かしたまちづくりを進めていくためには、多くの人が思いを持ってかかわる必要があることから、地域に対する誇りや愛着を醸成していくことが課題である。

4 市民意識調査(市民評価)

※割合の合計は、端数処理の関係により必ずしも100%にならない場合があります。

項目内容	●歴史遺産の保存と活用 ●地域の歴史に関する学習機会の提供 など					
	区分	満足	どちらかといえば満足	ふつう	どちらかといえば不満	不満
満足度調査	25年度	1.2%	14.0%	77.6%	5.5%	1.7%
	23年度	2.8%	14.4%	70.2%	10.3%	2.2%
重要度調査	25年度	第 20 位 / 20 位		5点満点中 3.92点(平均 4.39点)		
	23年度	第 20 位 / 20 位		5点満点中 3.40点(平均 3.98点)		

5 担当局評価(一次評価)

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)	
<p><b>行政が取り組んでいくこと</b> ■地域の歴史に関する学習機会の提供</p> <p>【文化財収蔵庫・田能資料館】</p> <p>1 【地域の歴史や文化財に触れる機会の提供】 地域の歴史や文化財をよりわかりやすく伝えるため、講座、見学会のほか、市民ボランティアの協力を得て実施する体験学習会や民話の朗読、人形劇・紙芝居の上演、むかしの映像の上映会など、幼児から高齢者まで各年齢層に応じた多彩な方法による学習機会の提供に努めている。</p> <p>2 【歴史学習に関するボランティアの養成と市民グループ等との連携】 (1) ボランティアとの協働 体験学習の指導や、その素材となる綿等の栽培を行う「れきし体験学習ボランティア」と、出土遺物の保存と活用作業等を行う「文化財サポートボランティア」の2種類のボランティアの養成に努めている。平成26年度の登録者数は110名を超え、文化財収蔵庫を拠点に学芸員との協働による積極的な活動が展開できるようになっている。 (2) 市民グループ等との連携 尼崎郷土史研究会、尼崎ボランティア・ガイドの会、富松城跡を活かすまちづくり委員会等の歴史・文化財関係団体のほか、地域団体・老人会・NPO法人等市内の各種団体からの依頼に応じ、事業の企画や実施にあたっての連携・協力を努めたほか、地域の歴史や文化財に関する研修会・見学会に平成25年度は26回、学芸員を講師として派遣した。</p> <p>3 【市民が歴史を調べ学ぶことのできる拠点施設の整備】 「城内地区まちづくり基本指針」に基づく(仮称)歴史文化センターの整備に向け、平成26年度に現文化財収蔵庫(旧城内中学校校舎)の耐震診断を実施するとともに、企画財政局が所管する城内地区整備の一環として、(仮称)歴史文化センターの整備計画を策定していくこととしている。</p> <p>【地域研究史料館】</p> <p>1 【地域の歴史を学ぶ場と機会の提供】 地域研究史料館事業における学習機会と場の提供としては、尼崎の通史を学ぶ講座「『尼崎史』を読む会」を平成6年度以来実施しており、平成25年度は例会・分科会合わせて23回開催、延べ332人が受講した。また尼崎地域の古文書を学ぶ自主グループ「尼崎の近世古文書を楽しむ会」を3グループ計65回開催し、延べ538人が受講した。</p> <p>2 【歴史に関わる多様な取り組みへの連携・協力】 史料館主催講座以外に、他団体・機関からの要請による史料館職員の出講講義、歴史に関する講座・展示・調査・出版等の企画への連携・協力も日常的に実施しており、多様な形で学ぶ機会・場作りに協力している。平成25年度は市民団体・民間機関からの要請によるもの10件、公的機関からの要請によるもの15件、計25件出講した。公的機関からの要請による出講には、尼崎市が実施する職員研修や公民館等の市民講座のほか、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会及び日本アーカイブズ学会といういずれも全国規模の専門学会からの依頼による出講事例もある。また歴史に関する講座・展示・調査・出版等の企画への連携・協力は、書面を取り交わして実施したもの12件のほか、軽易な史料・情報提供等は日常のレファレンス業務の一環として日々実施している。連携・協力対象には、「神戸・阪神歴史講座(尼崎歴史講座)」や「歴史の旅in尼崎」といった市民団体主体の継続的・系統的な歴史企画も含まれる。講座出講件数が増加傾向にあり、特定職員に集中し業務に支障を来すことから、複数職員による分担及び効率的な講義準備等が課題である。</p> <p>3 【史料整理・活用に協力する市民ボランティア事業の実施】 地域研究史料館における市民ボランティアは、月1~2回の定例グループ作業3種類及び複数メニューの随時個人作業、年2回体験講座として実施する下張りがし作業とメニューを用意して参加を募り、平成25年度は計323回、参加実人員75人、延べ人数476人の参加を得た。職員のマンパワーだけでは実施し得ない史料整理やデータ入力の成果を得るとともに、市民の多様な作業体験機会を作ることができた。平成25年度はボランティアに応募しやすいよう作業メニューを整理し、館公式Webサイトの募集ページをリニューアルしてわかりやすく例示した結果、平成24年度のボランティア作業回数274回に対して18%増、参加延べ人数434人に対して10%増となった。しかしながら、一方でそういった参加者数の増等に十分に対応していくための環境整備が今後に向けての課題である。</p>	<p>主な事務事業</p> <p>古代のくらし体験学習会事業 (仮称)歴史文化センター整備事業</p> <p>関連する目標指標</p> <p>①・②・③・④・⑤</p> <p>進捗</p> <p>○順調 ●概ね順調 ○やや遅れ ○遅れている</p>

次年度に向けた取組方針
<p>◆見直す・見直しを検討する事項</p> <p>【文化財収蔵庫・田能資料館】</p> <p>1 【地域の歴史や文化財に触れる機会の提供】 歴史学習の機会を提供していることがまだ十分に市民・地域団体に周知されていない面もあることから、周知、PR方法の見直し、検討を行い、より多くの市民・地域団体に歴史学習機会が提供できるよう充実に努めていく。</p> <p>◆継続的・重点的に取り組む事項</p> <p>【文化財収蔵庫・田能資料館】</p> <p>1 【地域の歴史や文化財に触れる機会の提供】 歴史学習機会の提供に関しては、引き続き、より効果的な手法の開発や市民ボランティア養成の継続的実施等を進めるとともに、参加者の増加を図っていく。</p> <p>3 【市民が歴史を調べ学ぶことのできる拠点施設の整備】 (仮称)歴史文化センターの整備に関しては、今年度の耐震診断結果を踏まえて、平成27年度から城内地区整備の一環、および市制100周年記念事業の一環として設計・工事等に着手し、歴史学習の拠点施設の整備を進める。</p> <p>【地域研究史料館】</p> <p>3 【史料整理・活用に協力する市民ボランティア事業の実施】 地域研究史料館主催の講座・自主グループを継続するとともに、市民主体の歴史企画との連携・協力を重視し、協働による学習機会と場作りをさらに推進していく。また多様な市民ボランティア作業の実施を継続していく。</p>

6 施策評価結果(二次評価)

評価と取組方針
<p>・地域の歴史に関する市民の学習機会の提供という点では、歴史探検ボランティアや文化財サポートボランティアの養成や、自主グループでの学習支援、様々な団体、機関への出講・協力など、市民とともに学びを支える活動は着実に増加している。</p> <p>・これら取組が十分周知されていないことや、増加する人数への対応などについては、更に知恵や工夫を凝らした取組を推進する。</p> <p>・現文化財収蔵庫を活用した(仮称)歴史文化センター整備計画は、耐震診断結果を踏まえて、地区全体の整備に係る費用を勘案した上で、事業内容などについて検討する。</p> <p>●上記取組方針を踏まえ、施策の2次評価は「継続取組」とし、現行取組を基本としながら、効果的な施策遂行に努める。</p>
総合評価
<p>□重点化</p> <p>■継続取組</p>

平成26年度 施策評価表 (平成27年度向け施策の取組方針)

施策名: 地域の歴史  
 施策番号: 17 - 03

1 施策の基本情報

施策名	17	地域の歴史	展開方向	03	住んでいる地域や尼崎市への愛着と誇りが育つよう、地域の歴史や文化財等の魅力を分かりやすくしっかりと伝えていきます。
主担当局	教育委員会		主担当課	歴博・文化財担当	
プロジェクト項目の該当有無	●	現役世代の定住・転入促進(地域資源を生かしたまちの魅力づくりの戦略的・効果的に発信)			
市長公約の該当有無	●	3 尼崎の無形有形資産を活用した施策の研究を進める			
局重点課題の該当有無	●	(企画財政局)市政情報の効果的発信のための仕組みづくり			

3 目標指標

指標名	方向	基準値		目標値(H29)	実績値					現時点での達成率	
		H24	H25		H26	H27	H28	H29			
① 尼崎の歴史に関心を持っている市民の割合	↑	H24	56.0	%	71	62.6	**	**	**	**	44.0%
② 本市の文化財に関してマスコミが取り上げた回数	↑	H24	84	回	97	84	**	**	**	**	0%
③ むかしのくらし学習で文化財収蔵庫に来館した市立小学校数	↑	H24	22	校	42	23	**	**	**	**	5.0%
④ 学校等と連携した出張授業等の実施回数	↑	H24	23	回	42	25	**	**	**	**	10.5%
⑤											

2 施策を考える背景(まちづくり基本計画の抜粋)

●本市は弥生時代以来2000年以上にわたる豊かな歴史・文化があり、また、その歩みを今に伝える史跡や文化財を始め、各時代のさまざまな歴史資料、産業遺産等が残されているが、これらは市内外に十分に知られていない。  
 ●文化財や歴史資料等の固有の地域資源をより良い形で将来につなぎ、活用していくためには、地域全体で保全活動等に取り組む必要があることから、地域の歴史に関する活動ができる環境や、子どもの頃から歴史を学ぶ機会を整えていくことが課題である。  
 ●地域資源を活かしたまちづくりを進めていくためには、多くの人が思いを持ってかかわる必要があることから、地域に対する誇りや愛着を醸成していくことが課題である。

4 市民意識調査(市民評価)

※割合の合計は、端数処理の関係により必ずしも100%にならない場合があります。

項目内容	●歴史遺産の保存と活用 ●地域の歴史に関する学習機会の提供 など				
区分	満足	どちらかといえば満足	ふつう	どちらかといえば不満	不満
満足度調査	25年度 1.2%	14.0%	77.6%	5.5%	1.7%
	23年度 2.8%	14.4%	70.2%	10.3%	2.2%
重要度調査	25年度 第 20 位 / 20 位	5点満点中 3.92点(平均 4.39点)			
	23年度 第 20 位 / 20 位	5点満点中 3.40点(平均 3.98点)			

5 担当局評価(一次評価)

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)	
<p>行政が取り組んでいくこと ■住んでいる地域や尼崎市への愛着と誇りを育てる</p> <p>【文化財収蔵庫・田能資料館】</p> <p>1 【学校との連携による歴史・文化に触れる学習機会の充実】</p> <p>(1) 文化財収蔵庫における取組</p> <p>①学校・園での綿や尼いも等、尼崎にゆかりの作物の栽培や収穫した作物に関する学習を支援する「栽培活用支援事業」、②学芸員と市民ボランティアが学校に出向き体験や映像等を活用した学習を行う「出張授業」、③小学3年生の社会科の授業と連携した文化財収蔵庫での「むかしのくらし学習」を実施している。いずれの事業も学校側の満足度は高く、毎年の恒例事業として定着している学校もある。特に③については、本事業を開始した平成21年度には11校の参加であったものが平成25年度には市立小学校の半数を超える23校にまで増加しており、学校教育との連携による歴史・文化に触れる学習機会の充実に努めている。</p> <p>(2) 田能資料館における取組</p> <p>平成25年度に学社連携の取組として、園和北小学校田能遺跡クラブとともに、復元土器による炊飯を実施し、校区内にある資料館として交流を深めている。平成26年度は、同小学校内に田能遺跡の土器や石器を展示し、歴史学習に役立てるとともに、他の小学校で古代米植え体験を実施するなど対象を広げ、田能資料館を知ってもらうきっかけづくりに努めている。</p> <p>2 【社会教育施設との連携による歴史・文化に触れる学習機会の充実】</p> <p>公民館の講座への学芸員の講師派遣や講座等の事業企画にあたっての連携・協力、図書館のロビー展示への収蔵資料の展示や展示企画にあたっての連携・協力等を行っており、社会教育主事、司書、学芸員がそれぞれの専門性を活かして連携することで学習機会の充実に図り、社会教育施設での収蔵資料の活用にも努めている。</p> <p>3 【歴史・文化に触れる場の拡充】</p> <p>文化財収蔵庫を旧城内中学校に移転させ平成21年度から常設展示の公開を開始しており、来館者数は平成21年度の7,299人(1日平均30人)から平成25年度の10,207人(1日平均42人)にまで増加した。さらに平成25年度には、企画展示室・講座室と観光バスが駐車できるように駐車場の整備工事を行い、平成26年度からは土・日・祝日開館、企画展や歴史講座の館内での開催等を開始したため、平成26年度の来館者数はこれまでのところ増加しており、文化財収蔵庫の移転、整備の成果が現れてきている。</p>	
<p>主な事務事業</p> <p>(文化財収蔵庫・田能資料館)維持管理事業 文化財収蔵庫整備事業(H25のみ)</p>	<p>関連する目標指標</p> <p>①・②・③・④</p> <p>進捗</p> <p>○順調 ●概ね順調 ○やや遅れ ○遅れている</p>

次年度に向けた取組方針
<p>◆見直す・見直しを検討する事項</p> <p>【文化財収蔵庫・田能資料館】</p> <p>1 【学校との連携による歴史・文化に触れる学習機会の充実】</p> <p>文化財収蔵庫が実施している学校教育支援事業について、いまだ学校・教員に十分周知できていない面もあることから、学校への周知、PR方法の見直し、検討を行い、より多くの学校の参加が得られるよう充実に努めていく。</p> <p>◆継続的・重点的に取り組む事項</p> <p>【文化財収蔵庫・田能資料館】</p> <p>2 【社会教育施設との連携による歴史・文化に触れる学習機会の充実】</p> <p>社会教育施設との連携については、公民館や図書館と連携して施設利用者のニーズ把握に努め、引き続き効果的な事業実施について検討を行う。</p> <p>3 【歴史・文化に触れる場の充実】</p> <p>(1) (仮称)歴史文化センターの整備に関しては、今年度の耐震診断結果を踏まえて、平成27年度から城内地区整備の一環、および市制100周年記念事業の一環として設計・工事等に着手し、歴史学習の拠点施設の整備を進める。</p> <p>(2) 田能資料館では、復元施設の老朽化が進んでいることから、更なる学習機会の充実に向け、施設整備を行っていく。</p>

6 施策評価結果(二次評価)

評価と取組方針
<p>・住んでいる地域や本市への愛着を育てる歴史への関心度合いは着実に増加している。</p> <p>・また、小学校社会科の授業と連携した実地学習会や出張授業の開催など、興味関心を高める取組も効果的に実施されている。</p> <p>・今後は、学芸員のみが携わるだけでなく、学校教諭による授業での展開や、各学年ごとの授業カリキュラムとの連携(地域学習や環境学習、歴史学習)、地域ボランティアの協力による学校授業への参画など、裾野を広げる活動が重要である。</p> <p>・現文化財収蔵庫を活用した(仮称)歴史文化センター整備計画は、耐震診断結果を踏まえて、地区全体の整備に係る費用を勘案した上で、事業内容などについて検討する。</p> <p>●上記取組方針を踏まえ、施策の2次評価は「継続取組」とし、現行取組を基本としながら、効果的な施策遂行に努める。</p>
総合評価
<p>□重点化</p> <p>■継続取組</p>